

歴史教育と歴史博物館



下出 積與*・倉田 公裕**

◇歴史を見直すこと

倉田 今日お出ましいただいたのは、歴史教育と歴史博物館というテーマで、先生のご意見を伺いたいと思ひまして。

下出 難しいなアー。今日は倉田さんにいろいろ教えてもらおうと、(笑い)

倉田 イヤイヤ、(笑い)
先生は、金沢の江戸村をご指導されたわけでしょう。

下出 江戸村ともう一つ、能登記念館俗に喜兵衛どんと云っていますが、能登にも作ったんです。私が作ったのちに文化庁から、それぞれ重要民俗資料とか、重要文化財に指定されたんですが、同時に始めたんです。

倉田 そうですか。この頃江戸村のような野外博物館があちこちにできていますね。その中で一番娯楽性の強いのが映画村ですね。日光の江戸村もそうですね。

金沢の江戸村は本物の建物を移築し、日光の方は全部模造なんですね。娯楽性が非常に強い。金沢の方は本物なんです、って余りおもしろくない。(笑い) そこが問題なんですね。

下出 答えになるかどうか分かりませんが、私は戦後昭和26年から金沢大学の方におりましたが、戦災を受けていないというので、金沢は非常に高く評価されていました。ところが、昭和30年代に入って池田

内閣の高度成長経済時代に入ると、都市の活性化という名目で今までのものが壊されたり捨てられたりしました。

よく、「歴史は繰り返す」といいますが、歴史は絶対に繰り返さない。しかし、歴史は見直すことはできる。歴史を見直すことを忘れたところに、未来の展開はないと。それが歴史をやる目的だと。これは私の持論ですが。

それでは歴史を見直すにはどんなことがあるか。過去の祖先が善きにつけ、悪しきにつけ残したものを、「もの」を通して見るのが、歴史を見直す場合非常に大きな力になる。ものを通してその時代のことを見直して、自分に反映させる。

従って、いろいろ破壊されていくことについて、保存しなくては行けないと、若気の至りで知事にも説いたし、いろいろやったわけです。

皆さん総論は賛成して下さるんですよ
(笑い)

倉田 成程

下出 いざ各論になると、いやこれは議会にかけてからとか、予算がとか、結局具体的なものは仲々進まない。

古いものは壊して、新しいものをどんどん作ることが金沢の発展に繋がるという論の方が強いんです。まあ仕方がな



金沢・江戸村

い。せめて写真、記録を残しておこう
と思って始めた所に、文化庁の当時文化
財調査官だった田山方南先生から桜井能
唯氏を紹介されて、桜井家の古文書の整
理をしたわけです。

◇江戸村の建設

下出 古文書の整理をするうちに、桜井さん
といろいろ話し合うと、私の意見に共鳴
してくれて、どの位予算を作ったらい
かといわれたんですね。今ならおおよそ
の見当もつくのでそんなに簡単に数字を
あげないんですけど、緊急に保存したい
家が5～6軒ある。5～6千万円もあれ
ば移築して復原できるだろうといったん
です。フーンと考えておられたんです
が、1月位たって重役会議を通したか
ら、先生始めて下さいって、私は驚きま
した。それが、江戸村を作ることになっ
たきっかけなんです。

倉田 そうですか。確かホテルの所有者の
方。

下出 そうです。日本観光K.K.です。そう
なると土地柄で桜井さんの所へあれやこ
れやと云ってくる人がいる。桜井さんは
下出先生に100%まかせたからと、一切

口出ししない。行き掛かり上こう
いうことになったが、私は建築は
素人ですしね。四高時代の先輩の
谷口さん^(注1)と田山さん^(注2)に相談し
て、谷口先生が「俺は明治村を作
った、お前は江戸村を作れ。うる
さいことは俺がバックアップする
から」と激励されて踏み切ったん
です。

私は、江戸村と名前は付けるけ
れど、江戸時代全体ではないとい
うこと、加賀藩前田家に関連のあ
るものを集める。ただし、武士中
心でなく庶民の生活を中心にする。

復原も当時の工法を用いる。この方
針でどうかといったら、それで結構だ
ということで始まったわけですね。

原則をたてて、それを厳重に守ってほ
しいということ。幸い金沢では江戸時代
以来の伝統のせいでしょうか、損得を度
外視して共鳴してくれる大工の棟領がい
たりして、こうしてほしい、こういうよ
うにやるということを工事にかかる前に
それぞれの責任者を集めて1カ月位講義
しました。

解体の時は絶体掛け矢以外の道具を使
うことは禁止で、私が検査する前にゴミ
は絶対に棄ててはいかんと、業者にくだ
い程申しました。

そして、解体は一軒やるのに、こちら
は素人なのでそうしたんですが、3,000
枚位の写真をとりましたか、一つ一つの
所を、

倉田 ほー、その資料は今もあるんですか。

下出 エー、保存してあります。

一番困ったのは材料で、一軒復原する
のに3軒分位集めました。それが大変で

(注) 1. 谷口吉郎 建築家

2. 田山方南 美術史家

した。建っている棟数にすれば20棟ですが、集めた材料はその倍位でしょう。

その材料で当時の釘、かすがいを作る。石も当時のものを出来るだけ集めて道路の復原をするということをやったわけです。

倉田 復原道路はおもしろかったです。

下出 だから復原材料の関係で江戸の寛政時代以上のものは集められなかったです。



金沢・江戸村

◇管理・維持の大変さ

倉田 お聞きすると、そこまで細かく学問的にやっておられたわけですけど、一般観客の立場でみますと、建物はあるんだけど人が住んでいないでしょう。だから埃がたまって汚れている。廃屋みたいな感じになってしまう。

それに対して日光の江戸村の方は今様のもので作られていますけど、娯楽を主にしていますから大勢の人がいくわけですね。

下出 出来上ってからの状況にも条件はついていたんですよ。

当然のことですが禁煙だとか、区域の中では自動販売機も含めて商業設備は一切おかない。商業行為は区域をくぎって行うとか。

最初は道具も生活用具も当時のものをおいて、手に触れて見られるようにした。一部は網をかけて入れない場所を作ったりしましたが、盗まれてしまう。初めのうちは補充していましたが、これ以上盗られたらもう補充しようにも当時のものはないということで、だんだん静的な展示になってしまいましたね。

維持費がかかりますからね。維持費だ

けは入場料金でどうにか賄っているようですが、……

倉田 そうですか、入館料1,000円でしたか、

下出 そうですね。維持費が出ることと、とにかく維持していける間は見世物などというのではなく、見学者はわずかでも、ここを見ることによって、現在の自分を見直す人が一人でも二人でも増えてくれればいいから、それ以外のことは考えてくれるなどっているんです。

倉田 江戸村には学芸員はいるんですか。

下出 学芸員のこともいろいろ考えて、話をしたんですが。私の方針を貫くためには学芸員をおく人件費がでてこない。どっちか一つをとるということで、仕方ない、学芸員はやめようと。

倉田 そうですか。

ご苦心されたものがせっかくあるのに残念な気がしますね。もう少し手入れがいき届くといいですね。

下出 おっしゃるように平常の手入れですね。結局金の問題になるが、入館料は修理費でほとんど終わってしまう。雪が降るでしょう。その為の修理が毎年かかる。それも元の材料でしている。



スウェーデン・スカンセン博物館

屋根のカヤを一度葺きかえると50〜60年はもつので、3回葺きかえても大丈夫という分量を集めておいてある。将来は、おそらくカヤもなくなると思いましたので、……

平常の説明とかは職員を訓練してやっていたが、私がこちらにきてから変わってきた。「どうしたんだ」というと、会社ですからね、そこまで金が出ない。

倉田 私は中味はあっておもしろいと思うんですけど、一般の方にとってはちょっととりつきにくい。やむを得ないんですかね。

下出 スウェーデンのスカンセンですか、当時そのままの生活状況を再現しているのがありますね。あすこまで考えたんですが、一企業のお金ではね。

もうひとつは、先輩からは財団法人化ということを言われまして、財団法人にして今のことを全部実施するとなると、一番最初の基金がね、余程大きくないと、残念ながら一ホテル経営の会社ではね。

倉田 なる程、企業としては大変奇特な方ですね。

下出 奇特な方です。私が感激しているのは

ホテルがなくなっても、江戸村が残ればいいと。だが、将来も絶対に営利追求型の経営者が登場しないという保証はないですからね。

倉田 そこは難しい所ですね。

経営的に成り立たせるか、学問的に保存していくか、余り娯楽も困るけど、学問的に正確でも、見学者がないというのも……

下出 おもしろくはないですよ。

倉田 先程お話に出たスカンセン

も野外博物館で、建物を復原して中でいろんなことをやっている。パンを焼くとか、ガラス細工とか、それが評判になって、でき上がったものを買っていくと、良い循環になっている。

江戸村はそれはできなかったが、基本的な精神はそこにあったわけですね。

下出 1軒だけでもいいからやりたかったですね。

◇文献中心の日本史

倉田 戦後日本で博物館が増えたのは、歴史系なんですね。現在2,554館あるんですが、そのうち60%は歴史系です。

先生が江戸村を初められた時は、戦後の地方史学の再興の時とかかわってくるわけですか、

下出 いいえ、地方史学はまだ一般化されないう。まだ郷土史の時代です。

倉田 そうですか。

下出 地方史のことは金沢では、江戸村ができてから考えるようになりましたね。

倉田 そうですか。地方史学の興隆と日本の経済的な伸長で、都道府県市町村が続々「郷土博物館」という形態を作り出したんですね。ところが、ちゃんとした理念もありませんし、隣が作ったからわが家

でも作ろうといった、同じようなものができ上る。

江戸村はそういう意味では理念も特色もありますね。経営者は大変ですよ。維持費を捻出するだけでも大変でしょう。

日本の歴史学のあり方なんですけど、どちらかといえば文献が中心で「もの」史学というのがなかったですね。高山樗牛が明治32年に、「一塊の遺物は万卷の書物に価する」等ということを書いていますが相変らずの文献史学ですね。一番の原因は学芸員が大学の研究スタイル、大学的なものの見方をそのまま博物館へ持ち込んでいるんですね。博物館としての独自の研究方法がまだないわけです。

今は研究した成果と収集したものを含めて展示しているが、先のことをいえばこれから逆になるんじゃないかと思うんです。教育するために研究する、「もの」を中心にね。そういう形態になっていくんじゃないかと思うんですけど、

下出 おっしゃる通りです。まだ小数意見ですが、歴史研究というのは文献史学といわれたが、紙の歴史、糸偏の歴史、土偏の歴史、考古学です。もう一つ民俗学はとにかく歩く、実際の生活をみるために歩くので足偏の歴史、糸偏と土偏と足偏と三つやって歴史学なんだぞと。文献史学というのは紙に書いた史料だけが中心になって……

倉田 そういう傾向は強いですね。学芸員は大学の研究室で学んでいるわけですから、その研究方法をそのまま持ち込んでいる。博物館はものを持っているわけですが、そのものの使い方を知らない。展示でも「ものを」見せようとする。「もの



スウェーデン・スカンセン博物館、ガラス工房で」見せようという気は薄い。解説をみても非常に説明的なんです。私はもっと理解に導くような展示とか、理解に導くような方法がないかと思うんですけど、どうも説明してしまうんですね。

自然科学の解説は説明なんです。学問的性格からいって、自然科学は説明でいいんですが、歴史は違うと思うんですが。その点で余り感心する歴史館がないように思うのですが、どこかありますか。

下出 佐倉の歴史民俗博物館、第一期の頃までは考え方としては井上光貞氏の考えが生かされたわけですが、今いった糸偏、土偏、足偏というのはそのことで、ものを見せるのではなく、もので見せるんだというのが基本理念で、やっていたわけですが、だんだんそうでなくなってきた感じがする。

それでも佐倉が出来た為に歴史展示が少し変わったのでは、

倉田 そうですね。

◇模写・模造

倉田 もので展示となってくると、今までのように本物資料だけというわけにはいか



京都・映画村での時代劇撮影

なくなってくるんですね。模造，模写，映像というものを上手に本物とまぜて，ひとつのストーリーを作っていかなければいけないと思うのですが，今の日本の博物館の力では無理ですかね。

模写，模造，映像といったものを多用して，「もの」が全然なかったら困りますけど，本物とそういうものを結びつけるということについて先生は，どうお考えですか。

下出 私は本物でなければ駄目だというような事は考えません。贋物と本物ということをも充分考えなければならぬのは，又文献になりますが，文書ですね。和紙ははがれますから，裏打ちといって出すと，有能な職人ははがして二つできる。そういうのがあります。どちらも本物だといえど本物，贋物に通ずるような贋物を作るのはいかんと思うが，いわゆるレプリカを作ってやるということは抵抗感ないですね。

倉田 先生のおっしゃった剥すのは日本画にもあるんです。ヒコウキというんですけど，同じものが二つある。片方はどうみても薄い。といって贋物ではないから判定に困る。

下出 全く贋物ではないから困る。

倉田 文書にもありますか。

下出 裏文書のあるものではできませんけど，特に茶掛けは多いですね。表装されてしまうとわからない。

倉田 絹もやれるようですよ。今はそんな職人もいないでしょうけど，

これだけ博物館の数がふえると，例えば今は二つの県に分かれているけど，昔は一つの国だったという所があるで

しょう。両方の博物館が狙うものは同じなんですね。そうするとお金を持っている所はいいものを持つ，同時に今おっしゃったような事も出てくるでしょうね。

下出 模造品に関連しますが，自分が臨場感を持ってのぞめる博物館の場所を作った方がいいと思うんですよ。

本物だけだと手を触れることはよくないでしょう。直接五感に訴えるものを，博物館へ行ってカゴならカゴに乗ってみる。皮膚に訴える展示の場所もほしいですね。

倉田 大きな館では体験学習室というのを設けてやっているんですけど，いかんせん基本にお金がないんです。だから竹トンボ作りとか，わらじ作りとか位しかやれない。

下出 お金はかかりますね。実際に復原の時に思いました。建てる時より解体にお金がかかりました。

倉田 そうでしょうね。

下出 せめて動くものにするとか。佐渡金山の資料館での金山での様子，漫画だといってしまうとそれまでだが，印象に残るということが理解の大事な要素だからね。

倉田 とっかかりが与えられますからね。今まで博物館がおもしろくなかった一つの理由は、余りにも学問的、教育的という意識が強すぎて楽しくない。楽しませるということを考えていない。正確ではあるけど普通の人には入っていけない。娯楽という用語があるが、「面白い」という要素はあるのではないかと思いますね。

下出 確かにそう思います。狭い経験ですけど、孫を連れて上野の国立博物館へ行ってもちっとも面白がらない。科学博物館へ行くと、「まだいる」「まだいる」と。自分で体験できるでしょう。

倉田 理工系の博物館はそれができるんですね。交通博物館などは子供でいっぱい。どうも歴史博物館という足が遠い。これから古いものもだんだんなくなりますね、本物絶対主義をとる方もいますが、展示を解り易くするには模写、模造、複製でがまんなくちゃいけない処もでてくる。

埼玉県立博物館ごらんになりましたか。

下出 いやまだ、

倉田 是非一度見て下さい。板碑がズーと並んでいる展示がありますが、全部コピーなんです。それで充分分かる。

下出 コピーでもいいんです。それがコピーの本当の意味だろうと思います。

倉田 そんなことを一番最初にやり出したのが神奈川県立博物館ですね。

例えば円覚寺の舍利殿はお寺に行っても外観も見られないです。ところが博物館では舍利殿の中を正確に復原しているんです。だから学生に行っていこうという



名古屋・博物館明治村

んですがなかなか行かないね——

(笑い)

◇博物館での研究方法の確立を

倉田 アメリカでは解説活動のことをインタープレティング (Interpreting) といっています。通訳という意味ですよ。ものの無言の言葉を言葉に変えてやる。自然科学とか理工系の博物館へいくと「分った、そうだったのか」ということがある。歴史博物館ではそういうことが余りない。発見の余地がない。説明しすぎているというか、……

大衆の歴史知識は70%は映画やTVからなんですね。NHKの時代考証の方にいろいろ話を聞くでしょう。一応考証はしているんですね。それが演出ということで誤魔化してしまう。

例えば江戸時代までの馬は蹄鉄などはいっているわけないですから、パカパカと走ってくるわけないんですが、パカパカでしょう。武田信玄も死ぬまで鬘つけたまま、俳優がいやがるのか、演出家がいやがるのか分かりませんが、それが知識になってしまう。

下出 そうですね。時代時代でね。明治維新



日光・江戸村長屋の復元

は福地桜痴の講談の知識です。困るんですがね。

倉田 それについても樗牛がいろいろいっていますが、そういう論議が樗牛以降ないのはどうしてでしょうね。

下出 そうですね。私、吉川英治を見直したことがあるんですよ。国史大系に「徳川実紀」というのがあります。学生の時古本屋で買ったんですが、赤が入ったり、註が入ったり読んだ跡がはっきりしている。調べてみたら吉川英治の本だったんですね。戦争中になくしてしまっただけ残念でしたが。近世史を専門にやる学生だって「徳川実紀」をズーと読みはしませんもの。

歴史小説もいろいろあるということですよ。TVの時代劇も同じでしょう。

倉田 歴史小説作家も克明に調べる人とそうでない人といいますね。吉川英治は克明に調べた方でしょう。

下出 自分の感じですが、吉川英治は小説書く時に調べて、それを壊して書いたから書けるんだなアーと、

倉田 歴史家さんはその意味では憶病なんですよ。

下出 史料も叩きようで、小さく叩けば小さ

い音、大きく叩けば大きい音がします。

倉田 そうですね。「もの」の鼓動を聞いていない。「もの」を放してしまう。いろんな見方をしたら何か出てくると思う。

博物館は「もの」を持っているんですから、「もの」の無言の言葉をもっと聞く必要がありますね。

下出 確かにそうですね。学芸員も大変ですが、学芸員養成課程を作った大学も最近でしよ

うし、そんなに多くはないでしょう。

倉田 多くはないといっても現在115大学あります。有資格者が年間8,000〜9,000人位卒業しているわけです。

下出 そんなに卒業生がおるとすれば、ペーパードライバーじゃないけど、後10年もたてばペーパー学芸員がふえて、何かの役に立ちますよ。

倉田 養成大学の先生の中には「博物館のシンバを養成しているんだ。専門家養成というにはほど遠い」と述懐している方もいますが、

下出 なる程ね。

倉田 シンバがふえて、博物館の利用の仕方とか、博物館の価値を認めてくれるということは期待が持てますね。もてますけども、専門家、学芸員という資格を職業教育と考えた時には非常に舌足らずです。

特に最近の若い人達を、私は「第三世代」といっていますけど、非常に保守的な考え方の人が多いですね。保守的な人が保守的なことをやりはじめています。そしたら博物館はまた元の珍奇な博物館に戻りそうな感じを持っています。

基本にあるのは大学の研究方法をその

まま博物館に持ち込んでいるからと思うんですがね。

下出 歴史学が実験講座にまだなっていないんです。実験講座としての市民権を得ているのは考古学だけです。

私達にいわせると、東洋史・西洋史が実験講座にまだなりにくいのは分ります。しかし、日本史が実験講座でないというのはとんでもない話だと、こういう考えなんです。日本史は実験講座にならないといけない、そういう性格の学問なんだということが、日本史全体の共通認識にまだ残念ながらない。

倉田 それは明治の始めに日本史・東洋史・西洋史という三区分を持ってきたことにあるんですか、

下出 そうですね。

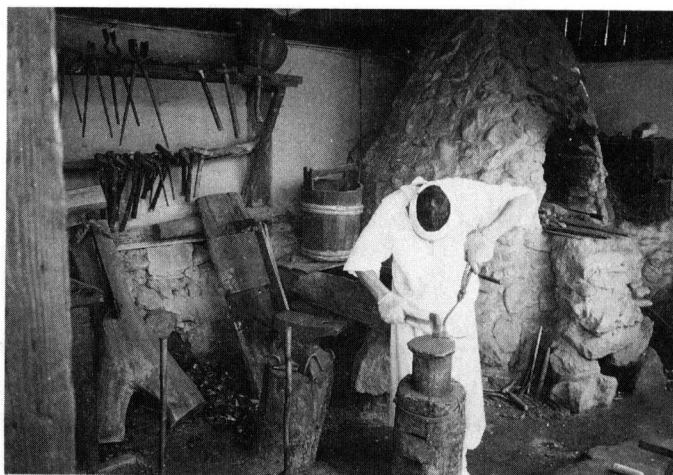
倉田 例えば郷土博物館という郷土史を扱っている。博物館地域と私達はいっていますが、その地域を越した所のものは扱っていない。ここだけは分るが、こっちは分らない。そんなものだろうか疑問を持ちますが。

東洋史が西洋史に含まれてしまったという話はちょっと聞きましたが、

下出 最近では東洋史にしろ西洋史にしろ、むこうの原典がなければできなくなっている。

倉田 もっともそういわれても、東洋史・西洋史をモノで扱えるような博物館ありませんね。先ず、資料が手に入りませんね。

下出 美術品はどことこの作品を何億で買っ



韓国・民俗村鍛冶屋

た等というのが時々ありますけどね。

倉田 それでも、大正の終わりから昭和初期にかけて、中国のものが日本に相当入っているでしょう。藤井有隣館とか、大阪市立美術館とかには良いものがあるんですよ。バラバラですがね。東京では根岸の書道博物館、中村丙午郎さんの所も、皆知らないんですよ。

もったいない気がしますね。

先生ご専門の古代史は、

下出 図書館はありますが、博物館は何もない。古代史どころか中世も駄目、南北朝の動乱は大変なものだから、いろいろなものがなくなっているから。

倉田 私達の方としては、どうやればこれから博物館が面白い所になって、知的遊園地になるかという問題ですけどね。

下出 そういったことをひとつ、よろしくお願いします。

倉田 いやいや、今日は有難うございました。

(昭和63年12月8日収録)